

## ビーイングだより

令和5年1月吉日

所在地 湯沢市小野字東水口205番地 2  
 TEL 0183-56-7310  
 FAX 0183-56-7311  
 E-mail ononokomachi@yutopia.or.jp  
 HP https://being-aoihana.org

## 理事長挨拶

寺門 敏子

あけましておめでとうございます。

気持ち的には、コロナから少し解放されたような時間があったような気がしましたが、またまたこの寒さと共に、大流行となりました。このような状況下、皆様には如何お過ごしでしょうか。

旧年中は温かいご支援、ご協力を頂きましてありがとうございました。役員、事務局一同心から御礼申し上げます。

ここ秋田は、12月の声を聞いてすぐ、雪になりました。毎年のことなのですが、気持ちも体も慣れず、全てに於いて動きが緩慢です。そんな中サッカーワールドカップが開催され、日本中がコロナも寒さも忘れて応援し、今日のスペイン戦では、感動的な勝利に湧きました。サポーターの観戦後の行動も世界中の人々の称賛を受けました。日本人の誇りみたいなものを再確認した瞬間でもありました。まさにスポーツの力ですね。

ビーイングにつきましては、今年は20周年記念の式典からはじまり、9月11日の瀬古利彦氏の講演まで20年の重みを感じつつ過ごした一年でもありました。後世に残るような立派な「20年のあゆみ」を参与根本氏に約1年を費やして作って頂き、佐々木年光実行委員長のもと委員の皆様には、一致団結して頑張る頂き素晴らしい式典を挙げて頂きました。会員の皆様からも温かいお祝いの言葉やご芳志を頂き、感謝に堪えません。

世の中、まさにコロナとの闘いの真っ最中でしたが、やるべきことは全てやり、全ての行事を無事終えることができました。会員の皆様に心からの御礼を申し上げます。

ビスコーサにつきましては、一段と体も大きくたくましく成長した子供達もまた、大きく体調を崩すことなく元気になってくれ、勉強にスポーツにと頑張ってくれました。また皆で汗をながしたジャガイモ、サツマイモづくり、大きな、立派な収穫ができました。後日カレーなどで感謝していただきました。

このように、今年も皆様のご協力と温かいご支援のもと、計画したイベントを中止することなく終えて、年を越すことが出来そうです。

来る年も変わらぬご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

令和4年12月3日

湯沢市 院内の愛宕神社 12月12日撮影

## ご寄付をいただいた皆様

佐々木征子様、村川征子様、高橋順一様、石川静子様、清水一子様、今野幸朗様、  
佐々木年光様、佐藤哲也様、樋口勇様、小松善憲様、柴田志保様

いつもご支援いただきありがとうございます。



11月19日（土）に雄勝中央病院の花壇の整備をしていただきました。  
高橋順一さん、小田島健三さん、ありがとうございました。  
雄勝中央病院の事務長さんからもお礼の電話をいただきました。  
「来年もよろしく願います」とのことでした。

## 大忘年会



市内の『福富』で恒例の大忘年会を開催しました。  
今年も皆さん、持ち歌を披露し紅白歌合戦のようになりました。  
大盛況でした。

### ビスコーサファームの最後の収穫『さつまいも』



今年も、イチゴ、トウモロコシ、じゃがいもを育て収穫してきましたが、さつまいもで最後となりました。

大きなさつまいもがたくさんとれてみんな大喜びでした。お誕生会で食べようかな。

### 身体拘束適正化研修会（兼）虐待防止研修会実施

11月18日に秋田県南児童相談所の高橋知之氏をお招きし『児童虐待相談について』研修を行いました。

①児童相談所について、②児童虐待への対応について、③子供を守る地域ネットワークについて理解を深めることができました。



## 郷土が生んだ横綱照國 (1919-1977)

### 「桜色の音楽」

あの大鵬が登場する前、数多くの最年少記録を塗り替えたのが第38代横綱照國萬蔵。相撲を取ると、あんこ型の餅のような白い肌が、ほのかに紅潮し「桜色の音楽」と形容された。観客は錦絵のような秋田の美男子に酔いしれた…。

### 「奇跡の腰」を鍛えた故郷

第38代横綱・照國こと照國萬蔵（本名・大野萬蔵、旧姓・菅）の出身地は、秋田県雄勝郡秋ノ宮村（現湯沢市秋ノ宮）。大正8（1919）年1月10日、農業と養蚕業を営む父・菅雄吉と母・トメ（横手市大森町出身）の間に四人兄弟の二男として誕生した。少年時代の萬蔵は、川魚捕りが得意な優しく聡明な子どもだった。体格が良く、足も速かった。萬蔵の日課は、小学校へ通う時間の合間に1日2回、蚕の餌用のクワの葉を山へ採りに行くこと。往復8キロの山道を大きな籠を背負って歩いた毎日が、のちに「奇跡の腰」と呼ばれる強靱な足腰をつくったといわれる。

昭和5（1930）年夏、母親のいところにあたる伊勢ヶ浜親方（元関脇清瀬川）が、萬蔵を角界へ勧誘するため、小学5年生だった萬蔵のもとにやって来た。この世界の厳しさを知る母・トメは反対。争いごとを嫌う萬蔵自身も相撲取りになる気はなかった。しかし状況は一変する。昭和7（1932）年、父・雄吉が急病により45歳の若さで亡くなった。その後、長男は満州事変で召集され、菅家は窮地に陥った。そんな中、再び伊勢ヶ浜部屋からの誘いが来た。男手を失った母と幼い弟たちの生活を楽にするため、萬蔵は母の猛反対を押し切り、力士になる決意をする。

母は「相撲さ行けば叩かれる。萬が、かわいそうだ…」と言って止めたが、萬蔵は「あばあ（母さん）心配するな。おらは立派な相撲取りになるから」と言って母を振り切った。

親方の代理で迎えに来たのは湯沢市出身の関脇幡瀬川だった。昭和8（1933）年7月、14歳のあどけない顔の萬蔵少年は、母が作ってくれた浴衣を着て、親方への手土産一つを持ち、幡瀬川とともに汽車に乗った。まさに裸一貫の涙ながらの旅立ちだった。

〈次号に続く〉

去年から行事やイベント等のお知らせをビーイングだよりに掲載してご参加いただくようにしておりました。忘年会につきましても役員以外の方々にも参加していただき、また、都合で来られないといった連絡もいただき本当にありがたく思っています。これからの催しや行事についてもビーイングだよりでお知らせいたしますので、何卒ご協力お願い申し上げます。

ご意見等ございましたらご連絡ください。

**後記** 今日12月12日、天気予報によると明日から大雪です。ホイールローダーでの除雪作業から一日が始まる日が近づいてきました。皆様、雪による事故には十分ご注意下さい。

令和5年も良い年となりますよう御祈念申し上げます。

事務局